

令和5年4月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和5年4月26日（水） 午後1時30分～午後2時06分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長 織田 恭淳
委員 前田 康一（教育長職務代理者）
委員 中村 亜紀
委員 兼子 貴絵
委員 前川 加奈子

4. 欠席者

委員 松宮 誠也

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤正晴
次長兼教育総務課長	山岡万裕
次長	東野裕賢
管理監	
兼未来創造部管理監（未来こども若者担当）	為永智子
教育改革推進室長	成田健
教育指導課長	高山義雄
すこやか教育推進課長	河合保
幼児課長	今田元宏
教育センター所長	橋憲照
生涯学習課長	下司満里子
こども若者応援課長代理	稲葉悦子
教育総務課長代理	富岡誠
教育総務課副参事	渡邊光徳
教育総務課主幹	川瀬奈津代

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 17 号 学校運営協議会委員の任命について

議案第 18 号 長浜市図書館協議会委員の委嘱について

日程第 5 協議・報告事項

(1) (仮称)長浜市こども若者計画の策定について

(2) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について

(3) 長浜市病児保育施設整備費等補助金交付要綱の一部改正について

(4) 民間保育所の整備について

日程第 6 その他

3. 閉 会

III. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

前田委員、兼子委員

3. 会議録の承認

3月定例会

特に指摘事項はなく、3月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：年度初めに各学校の管理職の先生方に、教育委員会の長としての抱負を述べさせていただいた。全部で4点お話しさせていただいた。

1点目であるが、「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という比叡山延暦寺の最澄が書かれた「山家学生式」という書物の中にある一説である。「一隅を照らす」という言葉を皆さんもお聞きになったかと思うが、いわゆる「一隅」という自分の置かれた立場、立ち位置を照らすという事は、自分の与えられた仕事

をしっかりとやるという事である。たとえば、先生の事でいうと自分の与えられた子どもたちへの教育というものを、しっかりとやっという事である。そういった事をやっという人、これが実は国の宝である。お金やそういうものではなく、しっかりと自分の役割を果たそうとする人材、それこそが国の宝であるという教えである。それぞれの与えられた場所でしっかりと仕事をしていただきたい、そういった人材を育てていただきたいという事を、管理職の先生方にお話しさせていただいた。よく、「教育は人なり」というが、ICTなど教育環境は変わっていくが、それを使って子どもたちに接していただき、さまざまな事を一緒に学んでいただくのは先生方であるので、先生方の人材育成をお願いした。

2点目は、「真の学力」の事である。本日の午前中に学力向上専門プロジェクトチーム会議を行ったが、全国学力学習状況調査の長浜市の結果が芳しくない事が続いている。もちろん、それだけですべてが測れるわけではないが、これを文部科学省からのメッセージと受け取ろうという事である。どういったメッセージかという、もちろん点数に現れる学力もそうであるが、問題を見ていただくと分かると思うが、その力をどのように社会に活かすか、その力がどれだけ子どもたちについているのか、あるいは友達とどれだけコミュニケーションを取りながら課題を解決していけるのか、そういった事が問われた問題が数多くある。今回の調査では、特にそれを文章で表す事ができたり、表現できたりするような部分が問われている。2050年問題が色々と取りざたされているが、これまでであったような、「よい学校を出て大きな会社に入る事が幸せである」といった事は全く通用しない。学校でいえば、先生が勉強を教えてくれるのをただ待っている勉強では、すでに子どもたちの力は発揮できないのではないかとこの事である。要は、自分たちが自ら課題を見つけて、課題解決をするために友達としっかりと力をあわせて、回答を見つけて実践する、あるいは発表する。そういった力をつけていかなければならないといった事が言われている。その力を測るためのテストであるとするならば、そこを指標としながらしっかりとやっというためには、学校で教科の勉強とあわせて「非認知能力」と言っているが、「諦めない心」や「努力する心」、あるいは「忍耐力」といった何か失敗しても次に立ち上がろうとする力であるとか、そういう力を育てていかなければならない。そういった力をつけるために頑張っという事で、学力向上専門プロジェクトチームの中で「長浜スタイル」という例を出している。それを何とか定着させて学校でもやっというてもらいたい、というメッセージを送った。学力向上専門プロジェクトチームには校長先生にも来ていただいているが、「なかなかそれは教員までは届いていなかった」という意見もお聞きし、こちらの思いや考え方が子どもたちに一番接していただいている先生方に伝わり切れていなかった、理解して貰えていなかったといった事を、今年は改善していきたいといった話を校長先生方にお話しさせていただいた。

3点目は、そういった授業を進めていくために必要なICTの話である。児童

生徒一人一台のタブレット端末が配布されているため、それを使ってもっとアクティブな授業や、時間の有効な使い方、あるいは先生方の仕事でいえば働き方改革に使うって欲しいといった事をお話した。Chat GPT の話題が良く出ているが、現在のところ規制はされているが、今後はそれが改善されながら、どのように仕事や学びの中に活かしていくかといった方向に進んでいくと思われる。様々な議論があるが、ICT を抜きにして私たちの生活というものは、これからはあまり考えられないと思うので、これをどのように活かすのか、有効に使えるかという事を含めて、子どもたちにも学習して貰わなければならないと考えている。ただし、これについても課題があり、授業の中でこれがどれだけ使えるのかという話もある。私がよくいう話に、小学校が出来て約 150 年であるが、先生が黒板に板書し、子どもたちに教えるといった授業が 150 年続いてきた。それを何とか子どもたちに理解させるように改善されてきたが、そこに ICT を取り入れていこうとすると無理が生じる。そういった理念や考え方を頭にいれながら、これまでとは全く違う授業を考えていかなければならない可能性があり、なかなか回答がない答えを探しているという状況である。いずれにしても、学校側には ICT を有効に活用できるような工夫をしていただきたいという話をさせていただいた。

4 点目は、先ほど少しお話した「非認知能力」についてである。3 月 24 日に文部科学省が公表した 21 世紀出生児縦断調査というものがある。いわゆる 2001 年（平成 13 年）に産まれたお子さんと保護者の経年調査をされたものである。その内容の一つに、学童期の体験活動とその後の非認知能力等に関する分析というものがあり、その結果として小学生に対し、意図的・計画的に体験活動の機会を充実させる事が非認知能力の向上の可能性があるという答申が出された。これを活用しない手はないという事で、新型コロナウイルスについても連休明けから緩和されるという事で、学校側には意図的体験活動、アクティブな授業をお願いしたいとお伝えした。その一つの切り口として、湖北市民会議という団体があるが、そこで長浜市が宣言しているゼロカーボンシティの取組をさせていただいている。その取組と学校をうまくコラボレーションができないかという事で、今すでに何校かはさせていただいているが、そこで「地球の問題」を子どもたちが自分たちの事として考えて、大人と一緒にディスカッションし、その解決に向けて実践していくことができないかという事である。昨年末に、長浜北中学校の生徒が 120 人ほどの大人の前で、しっかりとプレゼンテーションをしてくれたが、私はこの発表を見て非常に感動した。そういった体験を他の子どもたちにさせながら、非認知能力の向上に資すればと考えていると、校長先生方にお伝えした。

以上の 4 点についてお話しさせていただき、今後は、校長や教頭に伝えたから終わりではなく、各学校に指導主事に出向いてもらい、教師への指導・指示に繋がっていきたいと考えている。

5. 議案審議

議案第 17 号 学校運営協議会委員の任命について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：新規の人は、毎年このぐらいの人数を任命しているのですか。

教育指導課長：はい。昨年は同時期に 307 名を任命し、新規の方は 79 名でした。

教育長：長浜小学校では、2 名以外はすべて代わられていますか、毎年このような感じですか。

教育指導課長：そうだと思います。

教育長：わかりました。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり同意された。

議案第 18 号 長浜市図書館協議会委員の委嘱について

教育長は事務局に説明を求め、生涯学習課長から資料に基づき説明があった。

特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり同意された。

6. 協議・報告事項

(1) (仮称)長浜市子ども若者計画の策定について

管理監から資料に基づき説明があった。

前田委員：スケジュールの関係ですが、今、こういった事をやりますという提案をしていただいたのですが、その後の私たちの教育委員会への報告等はいつされるのでしょうか。

管理監：こちらのスケジュールには書いておりませんが、計画の進捗状況などは、随時、教育委員会に報告させていただき、ご意見等をお伺いしたいと考えております。

中村委員：7月に子ども若者会議を開催されるように書いてありますが、中学3年生の子どもたちは、勉強や部活など忙しいと思うので、そのあたりのスケジュールが気になりました。今の若い人たちは、しっかりしているので、様々な意見が出る事を期待しています。

管理監：いつぐらいなら生徒の皆さんに時間がいただけるかなど、校長先生などと相談しながら、みんなでタッグを組んで計画を策定していきたいと考えております。

兼子委員：すごい計画が始まると思っています。皆さんの本音みたいなものが、しっかりと上がってくる事を期待します。また、私もスケジュールが割と急ではないかと思いましたが、若者にも本音を出してもらえよう会議になるといいと思います。

前川委員：中学生からも意見を聞くという事ですので、子どもたちにはストレー

トに様々な思いを言っていただけたと思うので、すごくいい事だと思います。

(2) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について

幼児課長から資料に基づき説明があった。

質疑なし

(3) 長浜市病児保育施設整備費等補助金交付要綱の一部改正について

幼児課長から資料に基づき説明があった。

教育長：現在、病児保育所は何施設ありますか。

幼児課長：現在、市内には3か所ありますが、1か所は休止中です。米原市にも1か所あり、利用していただいております。

(4) 民間保育所の整備について

幼児課長から資料に基づき説明があった。

質疑なし

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。